



し 知ろう! ひろ 広めよう!

# の の い ち し し ゅ わ げ ん ご 野々市市手話言語・

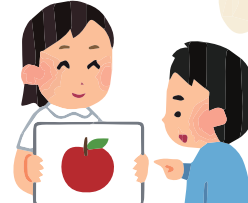
## しょうがいしゃ 障害者コミュニケーション じょうれい 条例

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| あ | か | さ | た | な | は | ま | や | ら | わ |
| い | き | し | ち | に | ひ | み | ゆ | り | を |
| う | く | す | つ | ぬ | ふ | む | よ | る | ん |
| え | け | せ | て | ね | へ | め | れ | ○ |   |
| お | こ | そ | の | ほ | も |   | ろ | × |   |
| 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |

透明文字盤



筆談



絵カード



コミュニケーション支援ボード



点字



重度障害者意思伝達装置



パソコン要約筆記



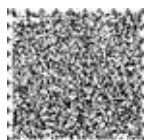
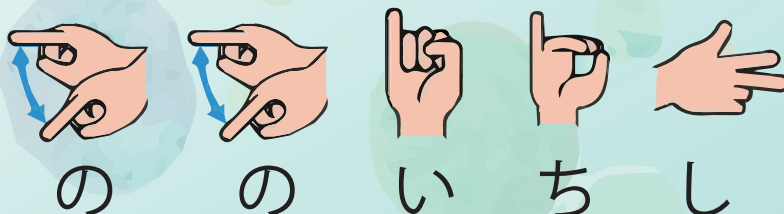
音声出力会話補助装置 (VOCA)



手話

わたし たちがコミュニケーションを取る手段や情報を得る方法は、文字や音声だけでは  
ありません。手話を含む言語、文字の表示、点字、音声、触覚、平易でわかりや  
すい表現、絵や写真で伝えるなど、多様なコミュニケーション手段があります。  
障害のある人が自分に合ったコミュニケーション手段を選ぶことにより社会  
参加を促進するとともに、人と人との出会いの中でお互いを理解し合える社会を作  
ることが大切です。  
障害の有無にかかわらず、一人ひとりがお互いの尊厳を大切にしようとするま  
ちづくりを推進するため、「野々市市手話言語・障害者コミュニケーション条例」  
を制定しました。

これは目の不自由な人のための  
音声コードです。  
専用アプリ入りのスマートフォン等  
で読み込むと音声の流れます。



# し じょうれい 知ってほしい! 条例のこと

# じょうれい がい 条例の概

## じょうれい きほん りねん 条例の基本理念

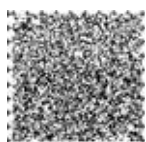


- 手話等コミュニケーション手段の選択と利用機会の確保は、障害のある人  
とない人の相互の違いや多様なコミュニケーション手段があることを理  
解し、また、お互いの個性と人格を尊重したうえで行うこと
- コミュニケーションを円滑に図る権利については、障害の特性に応じて  
最大限に尊重されること
- 手話に対する理解の促進及び普及については、手話を獲得する権利、手話  
で学ぶ権利、手話を学ぶ権利、手話を使う権利及び手話を守る権利を尊重  
したうえで行うこと

## じょうれい ていぎ 条例の定義

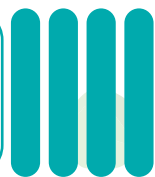


- 障害者とは  
身体障害、知的障害、精神障害（発達障害を含む）、難治性疾患その他の心身  
の機能の障害がある人であって、障害及び社会的障壁により、継続的又は  
断続的に日常生活又は社会生活に相当な制限を受ける状態にある人を  
いう。
- 手話等コミュニケーション手段とは  
手話、要約筆記等の文字の表示、点字、音訳、平易な表現、代筆及び代読  
などをいう





## それぞれの役割



### 【市の責務】

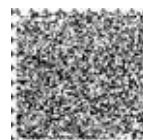
- 多様なコミュニケーション手段の理解及び普及を促進する
- 障害の特性に応じたコミュニケーションに関する合理的な配慮を行うことができるよう支援する
- 障害者が手話等コミュニケーション手段を利用することができる環境の整備を促進する
- 手話等コミュニケーション手段を学ぶ機会の確保及び人材を育成する
- 学校でろう児童が手話で学ぶことができるように必要な措置を講じるよう努める
- 市民が手話に関する理解を深めるため、学校教育における手話の普及啓発を行う

### 【市民の役割】

- 基本理念に対する理解を深め、市の施策の推進に協力するよう努める

### 【事業者の役割】

- 基本理念に対する理解を深め、事業活動において障害の特性に応じたコミュニケーションに関する合理的な配慮を行うとともに、市の施策の推進に協力するよう努める



# しかくしょうがい 視覚障害について

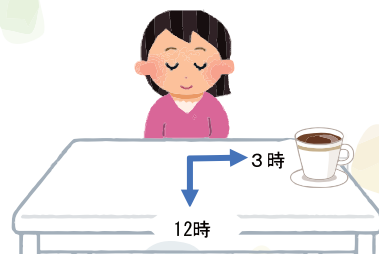
視覚障害のある人の見え方は「全く見えない人（全盲）」や「矯正しても視力の弱い人（弱視）」、「見える範囲の狭い人（視野狭窄）」などさまざまです。目が見えない、または見えにくいいため、歩くことや読み書きすること、身の回りのことをするときなどに困る場合があります。

## 【こんな配慮があると助かります】

- 横断歩道では、信号がかわってもわからないので危険なことがあります。青信号に変わった時は、「青になりました」と声で伝え、希望があれば一緒にわたりましょう。

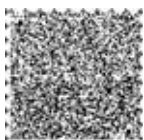


- 食事の時は並べられた料理の位置と内容を説明しましょう。食器の位置は時計の針の位置で説明するとわかりやすいです。



- 椅子に座ってもらう時は、背もたれに手を触れて位置を確認してもらってから掛けてもらいましょう。

- 視覚障害のある人は、近くに居るはずの人が、黙って居なくなっても、分からずに話しかけたりすることがあり不安になります。また、周囲の物を知らないうちに移動されると「物が無くなった」と感じたり、「歩いていたら思わぬ物があった」など、困ることになります。自身が視覚障害のある人から離れる時、周囲の物を移動する時は、前もって声かけをするようにしましょう。



## 【コミュニケーションの方法】

- 点字・・・縦3点・横2点の6点からなる表音文字で、すべて横書きで左から右へ読みます。



- 音声で・・・注意するポイント

〇〇です。  
こんにちは。



1. 見えないため、誰からの声かけなのかわかりません。話しかける時は自分の名前を言ってから声をかけましょう。

2. 「これ」や「あれ」という表現では正確に伝わりません。説明するときは指示語を使わず、「5センチ右」「〇〇申込書」「5メートル先を右に曲がる」など、説明は具体的にしましょう。また、左右については、「相手（視覚障害のある人）から見て」が基準になるので気をつけて説明しましょう。

## 【気を付けたいこと】

- 全盲の人と弱視の人では、お手伝いの方法はそれぞれに違います。まず、何が必要か聞きましょう。

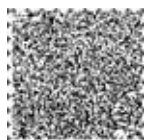
- 街で立ち止まって考えている時や何かを探している時には「お手伝いしましょうか」とひと声かけましょう。いきなり手を引いたりすると、相手を驚かせることになり、とても危険です。

- 案内するときは、白杖の反対側に立ち、腕や肩を貸してその人の半歩前に出てガイドします。手をつなぐほうが良い人もいますので、その人の希望を聞きましょう。



- 白杖は見えない人の目と同じです。杖を持つ手をつかんだり、引いたり、押したりすることは絶対にやめましょう。

- 盲導犬は目の不自由な人が安全に歩くために、十分に訓練された犬です。ペットではないので気軽に触ることはやめましょう。

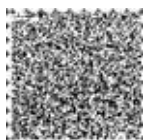


# ちょうかくしょうがい 聴覚障害について

聴覚障害のある人の聞こえ方は「全く聞こえない」「わずかに聞こえる」「音と言葉が聞き分けられない」などさまざまです。また、外見だけでは障害がわかりにくいいため、生活上の困難さを理解してもらえなかったり、困っていても周囲に気づいてもらえないことがあります。

## 【こんな配慮があると助かります】

- 声をかける時は、肩を優しくたたく又は前方に回り込んで相手の視界に入るなどして、相手に気づいてもらってから声をかけるようにしましょう。
- 電車やバスでの事故による運行中止や災害時の緊急サイレンなど、音の情報が聞こえないために周囲の状況を判断できず、危険な目にあうことがあります。そのような時には、手話や身振りで話しかけてみるか、筆談などで状況を簡潔に伝えるようにしましょう。一方的に書くのではなく、相手に確認しながら伝えるようにしましょう。  
筆談
- 聴覚障害のある人は、後ろからくる自動車のクラクションや自転車のベルが聞こえません。「相手が気が付かないのは、何か聞こえない理由があるのかもしれない」と思い、無理に追い越さないようにしましょう。
- 補聴器をしている人に大声で話すことはやめましょう。大きな声で話すと補聴器が大きな音を抑える機能が働き、声が歪んだり途切れ途切れに聞こえてしまいます。話す時は普段の声の大きさにし、相手の前で口を大きくあけ、ゆっくりはっきり話しましょう。



## 【コミュニケーションの方法】

●手話・・・手や指の動きだけでなく口や表情、動作も併せて表現する視覚的な言語です。



手話

●筆談・・・メモ用紙やスマートフォン等でのメモアプリを使い、文字を書いて意思疎通を図る方法です。筆記用具などが無いときは、てのひらに書いたり、空書（自分の人差し指で空中に字を書くこと）したりする方法もあります。



空書

●口話・・・相手の口の動きを読み取る方法です。話が長かったり早口だったりすると読み取りにくいいため、ゆっくりはっきりと簡潔に話しましょう。

●要約筆記・・・音声言語で話されている内容を要約し、文字で表して伝えます。パソコンと手書きによる方法があります。



パソコン要約筆記

## もう しゃ 盲ろう者について

「盲ろう」とは、視覚と聴覚の両方に障害がある状態です。見え方や聞こえ方はさまざまなので、その人に合わせたコミュニケーションの工夫が大切です。

|                   |            |           |            |            |
|-------------------|------------|-----------|------------|------------|
| ぜんもう<br>全盲ろう      | まったく<br>全く | み<br>見えない | まったく<br>全く | き<br>聞こえない |
| もうなんちよう<br>盲難聴    | まったく<br>全く | み<br>見えない | すこ<br>少し   | き<br>聞こえる  |
| じゃくし<br>弱視ろう      | すこ<br>少し   | み<br>見える  | まったく<br>全く | き<br>聞こえない |
| じゃくしなんちよう<br>弱視難聴 | すこ<br>少し   | み<br>見える  | すこ<br>少し   | き<br>聞こえる  |

## 【コミュニケーションの方法】

触手話、指点字、手書き文字などがあり、その人の見え方や聞こえ方、手話や点字の習熟度により、コミュニケーション方法は一人一人違ってきます。



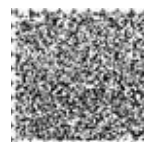
触手話



指点字



手書き文字



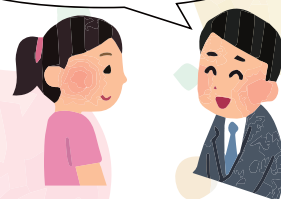
# ちてきしょうがい 知的障害について

知的障害とは、おおむね幼少期までに脳に何らかの障害を受けたために知的な発達が遅れ、複雑な判断や計算などに支援が必要な障害です。障害の程度はさまざま、重度の障害がある人は同伴者が必要なこともあります。障害が軽度の場合は支援を得ながら社会で働いている人もいます。

## 【こんな配慮があると助かります】

- 声をかける時は、いきなり強い口調にならないよう穏やかに優しい口調や表情で声をかけましょう。また、子ども扱いせず、年齢に相応しい対応で本人を尊重するように話をしましょう。

どうしましたか？



- 説明する時は、一度にたくさんのかことを理解することが難しいので、短い言葉（文章）で伝えましょう。絵や写真などを合わせて示すことで伝わりやすいことがあります。

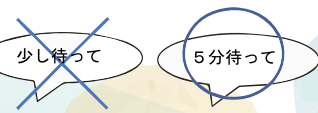


## 【コミュニケーションの方法】

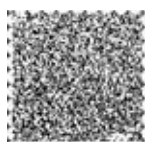
- 言葉で話す時は・・・  
短い文章で、ゆっくり、丁寧に、繰り返し説明しましょう。  
＜分かり合うためのポイント＞  
・自分の意見を言うのが苦手だったり、話すのに時間がかかるという場合もあるのでゆっくり余裕をもって接しましょう。  
・文章になっていなくても単語などから状況を推測し、話の内容を再確認しましょう。  
・「少し待ってください」などの抽象的な言葉は使わず、「5分待ってください」など具体的な言葉で話しましょう。



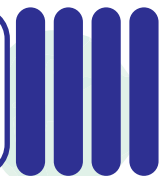
- コミュニケーション支援ボードを使って話す時は・・・  
＜分かり合うためのポイント＞



- ・ボードを見せて、相手に絵を指してもらいましょう。
- ・指さしが難しい場合は、本人の思いを推測しながら、代わりに絵を指さしして聞き、確認しましょう。



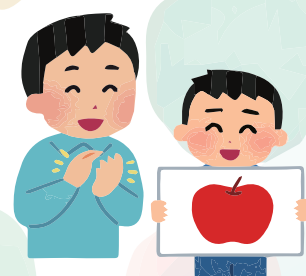
# はったつしょうがい 発達障害について



発達障害とは、脳の生まれつきの機能障害がもとになって現れる障害です。コミュニケーションや対人関係をつくるのが苦手であったり、思いついたことをよく考えないで行動してしまったり、約束やしなければいけない用事を忘れてしまうことがあります。しかし、優れた能力が発揮されている場合もあり、周りから見てアンバランスな様子が理解されにくい障害です。

## 【こんな配慮があると助かります】

- 行動などについて注意をする場合は、努力している点やうまくできている点をほめたうえで、できなかったところはどのようにすればもっとよくなるかを肯定的、具体的に伝えましょう。
- 暗黙の了解や社会のルールがわからないことがあるため、いけないことや迷惑なことははっきり伝えましょう。
- 急に話しかけられたり、触られたりするとびっくりしてパニックを起こしたり、人混みや大きな音、光などの刺激を苦手とする人もいます。本人が感じる不快感を大きくしないよう接するとともに、パニックを起こした場合は、静かに過ごせるところに誘導したり、特性を理解して温かく見守るなどの対応をしましょう。

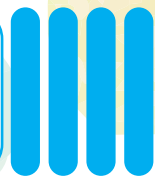


## 【コミュニケーションの方法】

- 言葉で話す時は・・・  
視覚的な情報を提示する、説明や指示は短い文で順を追って具体的に。  
＜分かり合うためのポイント＞
  - ・ その人が理解している言葉を使い、写真や絵などを添えて説明しましょう。
  - ・ あいまいな表現を理解するのが苦手なため、短い文で、一つずつ順を追って、具体的にすることなどを伝えるように配慮しましょう。話を理解しやすくなり、見通しが持てるようになります。



# せいしんしょうがい 精神障害について



精神障害とは、さまざまな精神疾患のため、ストレスに弱く緊張したり疲れやすくなるなど、日常生活や社会生活のしづらさを抱える障害です。適切な治療や服薬、周囲の配慮があれば症状をコントロールできるため、多くの人は地域社会の中で生活しています。

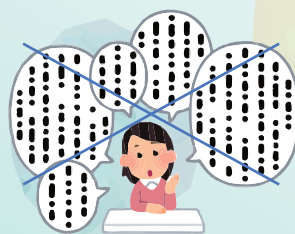
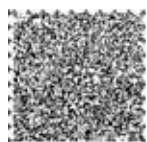
## 【こんな配慮があると助かります】

- 対人関係が苦手な場合が多いため、できるだけ本人に不安をあたえないよう、穏やかに接しましょう。
- ストレスに弱く精神的に疲れやすいので、常に本人の調子を見ながら、無理をさせないように気を付けましょう。

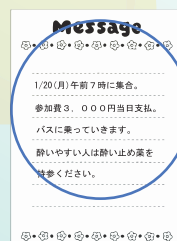


## 【コミュニケーションの方法】

- 言葉で話す時は・・・  
適度な声の大きさと、笑顔で対応しましょう。
- <分かり合うためのポイント>
- 不安の強い人や感覚が過敏な人もいますので、適度な声の大きさ、笑顔で対応しましょう。また、不安を感じさせないような穏やかな対応を心がけましょう。
  - 一度にたくさんのことを言われると混乱するため、ゆっくり丁寧に説明しましょう。
  - 複雑な内容を伝える場合は、紙に書いて渡すなどして対応しましょう。



一度にたくさんのことを言われると・・・



# その他の障害 (肢体不自由・難病)について



肢体不自由とは、身体<sup>しんたい</sup>の機能<sup>きのう</sup>の一部<sup>いちぶ</sup>、または全部<sup>ぜんぶ</sup>に障害<sup>しょうがい</sup>があるため、日常生活<sup>にちじょうせいかつ</sup>の中での動作<sup>どうさ</sup>（立つ・歩くなど）が困難<sup>こんなん</sup>になる状態<sup>じょうたい</sup>です。

難病<sup>なんびょう</sup>とは、発病<sup>はつびょう</sup>の原因<sup>げんいん</sup>が明らかでなく、治療方法<sup>ちりょうほうほう</sup>が確立<sup>かくりつ</sup>しておらず、かつ、長期<sup>ちやうき</sup>の療養<sup>りやうよう</sup>を必要<sup>ひつよう</sup>とする希少<sup>きしょう</sup>な疾病<sup>しつぺい</sup>のことで、それらをまとめて難病<sup>なんびょう</sup>といいます。筋萎縮性側索硬化症<sup>きんいしゆくせいそくさくこうかしょう</sup>（ALS）やパーキンソン病<sup>びょう</sup>などたくさんの疾病<sup>しつぺい</sup>があります。

## 【こんな配慮があると助かります】

- 車いす<sup>くるま</sup>を利用<sup>りよう</sup>している人<sup>ひと</sup>と話す場合<sup>はな</sup>は、相手<sup>あいて</sup>に上から見下ろ<sup>うえ</sup>しているような心理的負担<sup>しんりてきふたん</sup>を掛け<sup>か</sup>けないよう、かがんで目線<sup>めせん</sup>を合わせ<sup>あ</sup>てて話<sup>はな</sup>しましょう。



個々の疾病<sup>ここのしつぺい</sup>により、症状<sup>しょうじょう</sup>の特徴<sup>とくちゆう</sup>や注意<sup>ちゆうい</sup>する点<sup>てん</sup>が異<sup>こと</sup>なります。また、疾患<sup>しっかん</sup>によっては症状<sup>しょうじょう</sup>の出方<sup>でかた</sup>が一日<sup>いちにち</sup>の中で軽<sup>かろ</sup>い状態<sup>じょうたい</sup>と重<sup>おも</sup>い状態<sup>じょうたい</sup>とに変動<sup>へんどう</sup>することがあるので、本人<sup>ほんにん</sup>の状態<sup>じょうたい</sup>を正<sup>ただ</sup>しく理解<sup>りかい</sup>したうえでの配慮<sup>はいりょ</sup>が必要<sup>ひつよう</sup>です。

## 【コミュニケーションの方法】

- 麻痺<sup>まひ</sup>などで言葉<sup>ことば</sup>がうまく話<sup>はな</sup>せず、聞き取り<sup>ききとり</sup>にくい時<sup>とき</sup>があります。少し時間<sup>すこしじかん</sup>はかかりますが、先読み<sup>さきよみ</sup>せず相手<sup>あいて</sup>が話し終<sup>はな</sup>わるまで待<sup>まち</sup>ったり、聞き取<sup>ききと</sup>った言葉<sup>ことば</sup>をあいまいにせず一語一語<sup>いちごいちごかくにん</sup>確認<sup>かくにん</sup>するようにしましょう。

- 話<sup>はなし</sup>が聞き取り<sup>ききとり</sup>にくい場合<sup>ばあい</sup>は、イラストや図<sup>ず</sup>などを<sup>つか</sup>い工夫<sup>くふう</sup>してみましょう。



重度障害者意思伝達装置

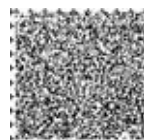
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| あ | か | さ | た | な | は | ま | や | ら | わ |
| い | き | し | ち | に | ひ | み | ゆ | り | を |
| う | く | ず | つ | ぬ | ふ | む | よ | る | ん |
| え | け | せ | て | ね | へ | め | れ | ○ |   |
| お | こ | そ | と | の | ほ | も | ろ | × |   |
| 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |

透明文字盤

- 障害<sup>しょうがい</sup>や疾病<sup>しつぺい</sup>により話<sup>はな</sup>すことが困難<sup>こんなん</sup>な場合<sup>ばあい</sup>は、透明文字盤<sup>とうめいもじばん</sup>や重度障害者用意思伝達装置<sup>じゆうどうしょうがいしやよういしでんたつそうち</sup>や音声出力会話補助装置<sup>おんせいしゅつりよくかいわほじょそうち</sup>（VOCA）などの機器<sup>きき</sup>を<sup>つか</sup>いコミュニケーションを<sup>はか</sup>ることも有効<sup>ゆうこう</sup>です。



音声出力会話補助装置（VOCA）



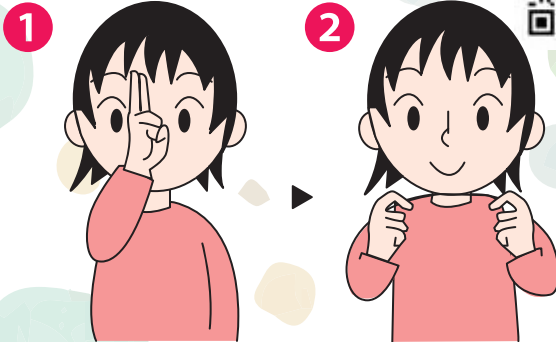
# しゅわ たんご あいさつ 手話の単語 (挨拶など)



野々市市公式  
YouTubeチャンネル

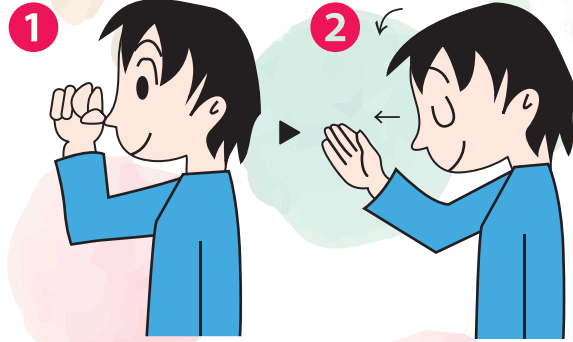
野々市市公式YouTubeチャンネルで  
手話講座をはじめました！  
「野々市市 手話講座」で検索、または  
QRコードからご覧ください。

## こんにちは



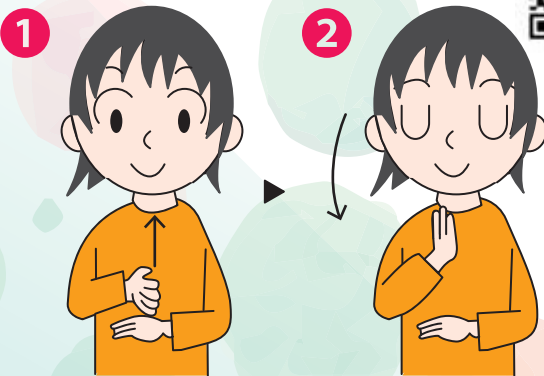
- 1 右手の人差し指と中指を立てて額に当てる。「昼」を表す
- 2 両手の人差し指を向かい合わせて曲げる。「あいさつ」を表す

## ねが よろしくお願いします



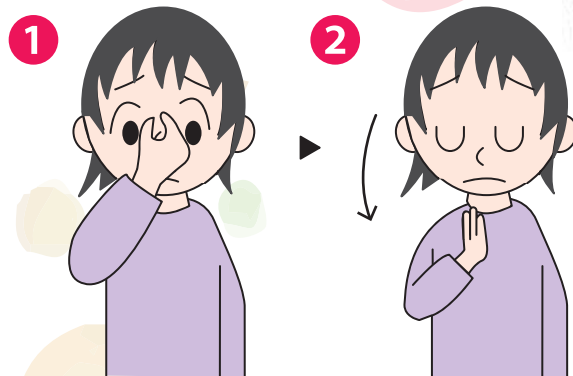
- 1 右手のこぶしを鼻にあてる。「よい」を表す
- 2 手を開き、頭を下げながら手を前に出す。「お願い」を表す

## ありがとう



- 1 左手の甲に右手を垂直にのせて上に上げる(力士の手刀と同様)
- 2 頭はおじぎをするように軽く下げる

## ごめんなさい



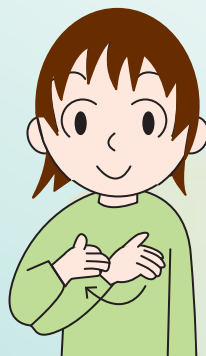
- 1 親指と人差し指で眉間をつまむ
- 2 手を開き、指をそろえて下へおろしながら頭を下げる

## しゅわ 手話



両手の人差し指を向かい合わせてのばし、交互に前に回す

## できる



右手の親指以外の4本の指先を、左胸から右胸の順にあてる

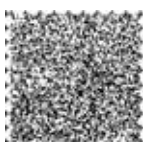
## できない



右手の親指と人差し指で、右ほおを軽くつねるようにする



I LOVE YOU



さくせいぎょうりく  
作成協力  
といあわ  
お問合せ

ののいちししゅわげんごとう  
野々市市手話言語等コミュニケーション施策推進協議会

ののいちしけんこうふくしぶふくしそうむか  
野々市市健康福祉部福祉総務課

TEL 076-227-6063 FAX 076-227-6251

〒921-8510 ののいちさんのういつちょうめ ばんち  
野々市市三納一丁目1番地 Email [fukushi@city.nonoichi.lg.jp](mailto:fukushi@city.nonoichi.lg.jp)